
ハッピーバレンタイン

紅碧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハッピーバレンタイン

【Nコード】

N0633Z

【作者名】

紅碧

【あらすじ】

西暦3095年2月14日。粉雪の降るバレンタインデーにシルビアは教会へと向かう。

西暦3095年2月14日

粉雪が、雲の合間の青空から煌めいて、ふりそそいでいた。
教会の十字架が、森の奥にきんいろに輝いて見える。
樺並木の葉は、落ち葉となり、降りしきる雪とともに石畳に降り積もっていた。

おちついたモスグリーンのフードコートと、チャコールグレーのブーツ。
深めにかぶったフードの中の彼女のエメラルドの双眸は教会にむかっていった。

あの人は甘いものがきらいだった。
じつくり、コトコト、ホワイトシチューを煮込もう。
誕生日だし。
だから私は別のものを買った。

手に持つ紙袋をかかえたまま彼女は教会に入って行った。
につこりと微笑する牧師に「フードコートはそのままでも祈ってもいいですか?」とひとこと断ると、「どうぞ」と案内される。

神様。

神なんてはたしてこの世に存在するのかわからないが、彼女は心に祈った。

新しい命を救ってください。

私に全てをなげうつ勇気をください。
愛を。

その夜。

山積みになれたバレンタイン用のチョコを、彼はダンボール箱に入れたまま持ち帰った。

「俺は所帯持ちだから、これは全て、義理チョコだ」

「妻がいる人に本気だすやつも世間にはいるよ」

「そんなの知ったことか。俺はおまえだけでいい。それに俺は甘いものが大嫌いなんだ。太陽系連合公式ブログにも毎年そう書いている。それ知って送ってくる奴らは、悪意があると思えん。おまえ全部食べろ」

「両方とも、すごく嬉しいけど、それはまずい。医者にしかられるよ」

「どうして？」

「じつは」

一部始終を話したのが、もう5ヶ月目すぎてるというのをきき、仰天する夫であった。

「もう産むしかないな。危険承知だけどいいよね？」

「とにかくがんばれとしか、男側としては言えんな。がんばってくれ」

「なんとしてでも産みたい。がんばるよ」

そう言うと彼女は白い紙包みから、小さな青い箱を取り出した。

「誕生日おめでとう。開けてみて」

「ありがとう」

ブラックが手に取った小さな箱を開けるとそこには、瑠璃の埋め込まれた銀色のネクタイピンが入っていた。

「プラチナだよ。だから錆びない。瑠璃は願いがかなうっていうお守りにもなるってさ。店の人が言ってた」

「大切にするよ。ありがとう」

彼は彼女を抱きしめ、そっと口付けをした。

結婚したのが、シルビアは17歳の時であった。それから8年。ここまでするのに、尋常ではない苦労も経験済みの2人だった。

6月に男児を出産するシルビアのハッピーバレンタインの一幕であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0633z/>

ハッピーバレンタイン

2011年12月2日14時52分発行